

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和6年8月29日現在

今月の重点活動

■えだまめ 産地の維持拡大にむけた収穫の機械化実証

J A ぎふえだまめ部会は、岐阜市のえだまめ産地の維持拡大に向け、えだまめ収穫機（株式会社ミツワ製 GTH-1）による収穫の機械化実証に取り組んでおり、これまで農林事務所は様々な支援を行ってきた。

7月29日から8月7日までの期間、収穫機導入に前向きな3戸の生産者が試験運用できるよう J A ぎふが収穫機をリースした。また、広く生産者や関係者に情報の提供をするため、8月5日に機械収穫の実演会を開催し、約30名が参加した。実演会では収穫機メーカーが説明を行い、生産者が収穫機を操作した。収穫作業の素早さに感嘆の



【若手生産者が収穫操作する様子】

声が上がった一方で、収穫ロスや莢の機械損傷が発生することが明らかとなった。あわせて、市場流通試験も行い、機械収穫物は手刈り収穫物と比較し、品質劣化等の問題がないことを確認した。

農林事務所は、生産者の規模拡大を実現する手段の一つとしてこれらの実証結果を取りまとめ、規模拡大を志向する生産者や関係者との情報共有を図った。今後は生産者の声を聴きつつ収穫機の導入支援を継続する予定である。

(園芸産地支援第一係)

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 女性農業経営アドバイザーが研修会を開催（GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック）

岐阜県は、農業経営に自ら参画し、地域活性化などに貢献する女性農業者を「女性農業経営アドバイザー(通称 GLAMA)」に認定している。当所管内の GLAMA で組織する GLAMA いきいきネットワーク岐阜ブロックは、自らの資質向上を目的に、研修会や先進地視察等の組織活動を実施しており、農林事務所はその運営等の活動を支援している。



【自身の己書を手にする出席者】

メンバーには、自作した POP 等を活用し朝市や直売所で販売を行う農業者が多く、商品 P R のためアピール性の高い販売促進資材の作成スキルが求められる。そこで、これらのスキルアップを図るため、「描く書・読める絵」と言われる「己書(おのれしょ)」の研修会を8月29日に開催した。

参加した19名の会員は、慣れない筆運びに戸惑いながら、各々の表現で作品を作り上げていった。販促資材や屋号作成にも活用したいとの声もあり、非常に有意義な研修会となった。

農林事務所は組織活動の支援を通じて、引き続き女性農業経営アドバイザーが取り組む経営改善を図っていく。

(園芸産地支援第一係)

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 早生品種の収穫が始まる

農林事務所管内では、8月7日の羽島市の「特別栽培米あきたこまち」を皮切りに、岐阜市、本巣市、山県市などで「ミルクークイーン」や「コシヒカリ」などの収穫が開始された。

今年は、生育期間の高温により出穂期・登熟期ともに平年より3日程度早まっている。玄米の品質は、登熟期の高温による影響から白未熟米がやや多く、品質の低下が見られる。また、今年、発生量が多いカメムシ類による被害粒は平年並からやや多くなっているが、適期防除を実施したことで品質低下を防止できた事例も見られた。なお、収量は平年並みが見込まれる。

農林事務所では、水稲の中晩生品種の収穫へ向けて、病虫害防除の徹底や適期収穫の励行を働きかけるなど、高品質な米生産への技術支援活動を継続して実施していく。

(地域支援第二係)



【あきたこまちの収穫の様子】

■エゴマ やまがたエゴマ協議会が総会を開催

7月31日、やまがたエゴマ協議会が山県市役所で総会を開催し、令和5年度の活動実績の報告と令和6年度の計画を検討した。

協議会では、国の「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」の採択を受け、鶏糞堆肥を使用した機械化一貫体系によるエゴマの大規模栽培に令和4年度から取組んでいる。今年度が最終年度となるため、農林事務所は今までの成果をふまえた栽培マニュアルと産地戦略の作成について説明した。協議会からは、今年度の直播及び定植した面積合計は5.5haとなり、7月に行った視察は大変有意義であったとの報告があった。

今年度は、雑草の発生が特に多く収量低下が心配されることから、次年度の対策を支援していく。

(地域支援第三係)



【総会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 本巣いちご部会生産者大会

8月23日、JAぎふ糸貫流通センターにおいて、本巣いちご部会生産者大会が開催された。令和5年作については、9月の高温によりいちごの頂花房分化が著しく遅延し、出荷開始が大幅に遅れることとなった。その後の出荷量も平年より低く推移し、3月には大きな落ち込みを見せる等、不作だった令和4年作を下回る結果となった。

大会後の栽培講習会では、農林事務所からまず令和5年作を振り返り、出荷開始がなぜ大幅に遅れたのかを説明した。その後、今作で現地実証試験を行う高温対策の内容を紹介し、気候変動下での今後のいちご安定生産に必要な栽培管理等について説明を行った。

8月末現在、本年9月も高温になる気象予報となっており、今作も頂花房分化の遅延が懸念される状況となっている。引き続き、農林事務所では現地実証試験での調査を行うとともに、今後の生育状況に応じて対策を検討する等、安定生産のための支援を行っていく。



【栽培講習会の様子】

(園芸産地支援第二係)

■かき 令和6年作の生育状況及びベビーパーシモン統一目揃い会

本年のかきの生育については、着果量も多く、果実肥大も順調に推移してきたが、梅雨明け後の高温少雨による日焼け果の発生、果実肥大の停滞等、気象による生育への影響が出始めている。さらに、果樹カメムシ類の多発や台風の影響等、作柄に影響を及ぼす懸念材料が多い状況となっている。

この様な中、8月29日に令和6年産岐阜ベビーパーシモン統一目揃い会が開催された。ベビーパーシモンは一口サイズのかきで、岐阜県のかきの中では最も早く9月上中旬頃から収穫できる。そのかわいらしい大きさと高糖度（16度以上）という特長から、かきの新ブランドとして確立しつつある。

目揃い会では、県農業経営課・革新支援専門員から現在の生育状況について説明があり、その後、県統一規格について生産者、関係機関で確認を行った。生産者は真剣に説明を聞き、かきの新ブランドとしての地位を確立するための強い意欲が感じられた。

今作のかきについては、今後、「早秋」、「太秋」、「富有」の順に収穫、出荷が始まる。農林事務所では安定生産、出荷に向けた支援を引き続き行っていく。



【統一目揃い会の様子】

(園芸産地支援第二係)